

発表番号 24

肢体不自由のある子どもへの
コミュニケーションの指導・支援の
ための教材

「みんなに給食 おしえ太郎」

「先生と一緒に これし太郎」

専攻科 208v9910 田中久晴

発表の流れ

1. 生徒の実態・イメージ
2. 学習指導要領における位置づけ
3. 「みんなに給食おしえ太郎」について
4. 「先生と一緒にこれし太郎」について
5. 教材の作り方

1. 生徒の実態・イメージ



○重度の肢体不自由のある中学生

○普段は座位保持いすを使用

○学習以外の時には、ベッドで過ごすことも多い

○手・足の指先を使ってスイッチ操作ができる

○人と関わることが好き

○視線や表情で意思表示(はい、いいえ)できる

が、確実ではない

1. 生徒の実態・イメージ

(卒業後)めざす姿

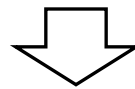


保護者の思い

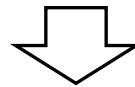
☆気持ちを伝えてほしい(最終的には文字で)

生徒の思い、できることから

☆したいことや要求を周りの人に伝えられる方法があるといいな



どんな力を身につける必要がある？



コミュニケーション力の向上を目指そう！

2. 学習指導要領における位置づけ

自立活動の内容から

3 人間関係の形成

(1)他者とのかかわりの基礎に関する事

4 環境の把握

(1)保有する感覚の活用に関する事

5 身体の動き

(3)日常生活に必要な基本動作に関する事

6 コミュニケーション

(2)言語の受容と表出に関する事

(4)コミュニケーション 手段の選択と活用に関する事

2. 学習指導要領における位置づけ

第3章 視・聴・肢・病の各教科

第5 病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

4 補助用具や補助的手段、コンピュータ等の活用

身体活動が制限されている児童生徒や、高次脳機能障害や小児がんの晩期合併症により認知上の特性がある児童生徒の指導にあたっては、実態に応じて教材・教具や入出力支援機器等の補助用具を工夫し、例えば、運動・動作の障害がある児童生徒がスイッチや視線入力装置、音声出力会話補助装置などの入出力支援機器や電動車いす等の補助用具を活用したり、本を読むことが困難な児童生徒がタブレット端末等の拡大機能や読み上げ機能を使ったりして、学習を効果的に行えるようにすることが重要である。

2. 学習指導要領における位置づけ

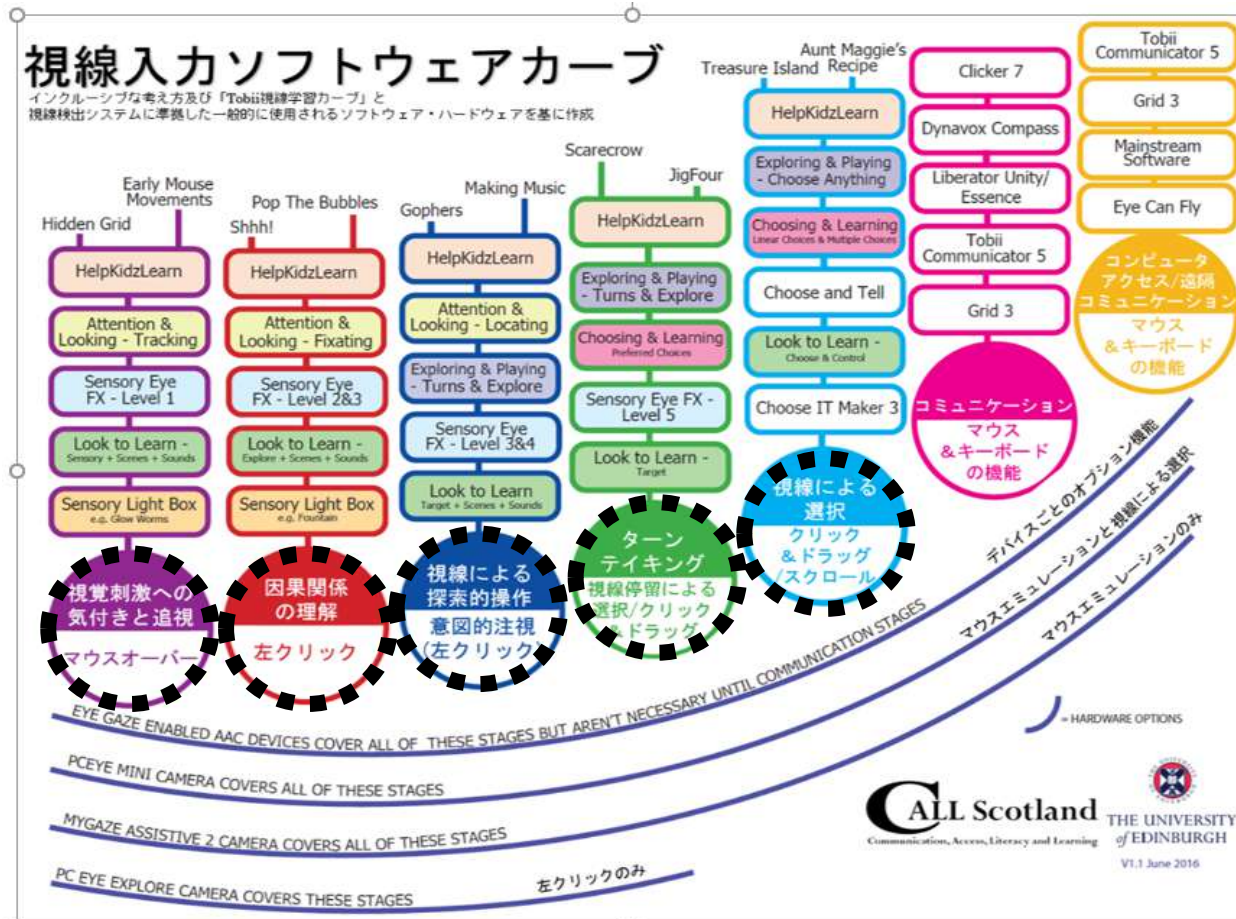


Fig.1 Eye Gaze Software Curve (Courtney ら, 2015) を筆者が一部翻訳 塩塚2019

最終的には、視線入力を使いたい
 しかし、それまでにこういう段階が必要…

2. 学習指導要領における位置づけ

重複障害児の視覚活用の困難さへの理解

見るためには、視線を向けて視ること、見続けること、追視したり、見比べたりすることが必要です。しかし、体の動きと同様、眼球の動きも筋肉の動きによってコントロールされているため、肢体不自由があると、視覚に器質的な障害がなくても、あたかも見えないようにとらえてしまうことがしばしばあります。同様に、見えていないにもかかわらず、見えているようにとらえてしまうこともあります。しかし、見えているか否かによって子どもにアプローチする方法も教材も変わります。「見えているのかどうか」の判断がしづらいとき、見えにくさをもっていることのためによるのか、運動的な問題から見る機能を活用することが難しいためなのかを観察する姿勢が重要です。「見えにくさがあるかどうか」のリスクを基礎疾患も含めて総合的に判断することが大切です。

3. 「みんなに給食 おしえ太郎」



3.「みんなに給食 おしえ太郎」

どうやって使う？

○朝の係活動で、クラスみんなに今日の給食の献立を、自分が伝えたい順番に、先生と一緒に伝える時に使います。伝えたい献立をしっかりと見つめると、先生が発表してくれます。

指導目標と評価

観点	主な自立活動の区分	目標（評価基準）
○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度	3 人間関係の形成	伝えたい献立に視線を止めることができる
	4 環境の把握	伝えたい献立の方に視線を動かすことができる
	5 身体の動き	教師の言葉掛けで視線を動かすことができる

3. 「みんなに給食 おしえ太郎」

ポイント



- 透明な板を使うことで、子どもの視線の動きを追うことができます。
- 吸盤を使うことで、提示する位置を自在に変更できます。
- 中心部分に、基準点をもうけました。

課題



- 毎日の献立の写真を用意するのは大変です。
- 教師のことばの掛け方で、生徒のやる気が変わります。

4. 「先生と一緒に これし太郎」



4. 「先生と一緒に これし太郎」

どうやって使う？

○自立活動の時間に使います。どの先生と、何をしたいかをホワイトボードに提示されたカードを選んで決定していきます。視線や表情を使って、自分の考えを伝えます。

指導目標と評価

観点	主な自立活動の区分	目標（評価基準）
○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度	3 人間関係の形成	伝えたいカードに視線を止めることができる
	4 環境の把握	伝えたいカードの方に視線を動かすことができる
	5 身体の動き	教師が言葉を掛けると、表情で応えることができる
	6 コミュニケーション	

4. 「先生と一緒に これし太郎」

ポイント



- 使うカードを変えることによって、様々な活動につなげることができます。
- 一度に提示する枚数を調整することで、課題の難易度を変えることができます。
- 絵カードには、絵と一緒に文字の情報も入れました。
- パワーポイントで再現しやすい形にしました。



課題

- やりたい活動が選択肢にない時、モチベーションが下がる場合があります。
- 活動を実行した時、盛り上がるかどうかは、依頼を受けた先生次第です。

5. 教材の作り方①

みんなに給食 おしえ太郎

材料

- ・透明な板
- ・絵カード
- ・ラミネートフィルム
- ・吸盤
- ・クリップ
- ・シール



5. 教材の作り方①

みんなに給食 おしえ太郎

作り方

- ・吸盤にクリップをホットボンドで固定する。
- ・ネット等を使って、給食の写真カードを印刷。
→ラミネートをする。
- ・透明な板の中心にシールを貼る。

作るときのポイント

- ・吸盤は小さいものを使いやすい。



5. 教材の作り方②

先生と一緒に これし太郎

材料

- ・ホワイトボード
- ・ラミネートフィルム
- ・マグネットシート
(シールつき)
- ・先生たちの顔写真
- ・dropsの画像データ

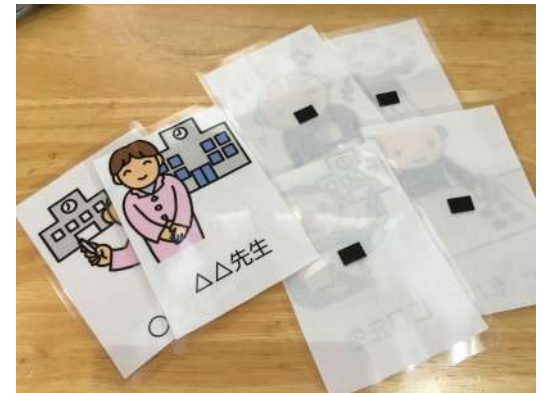


5. 教材の作り方②

先生と一緒に これし太郎

作り方

- ・「何をする」カードはわかりやすい絵を選んで印刷する。
- ラミネート→裏にマグネット
- ・先生たちの笑顔の写真を使って「誰と」カードを作成



作るときのポイント

- ・カードは同じ大きさに準備します
- ・パワーポイントの画面をイメージして作ります。



6. 参考にしたもの

- ・「重複障害教育実践ハンドブック」
(全国心身障害児福祉財団 平成21年)
- ・視覚支援シンボル集「ドロップス」
- ・かわいいフリーイラスト集いらすとや